

造形要素の観点から 保幼小の造形活動をつなぐための 基礎研究

最終更新日:2021.4.7

【プロジェクト代表者】
美術教育ユニット
教授
松久 公嗣

キーワード

造形要素, Reggio Emilia Approach, 図画工作, 美術, 幼児教育

プロジェクトの内容 (目的・方法・結果と意義)

これまでの小学校図画工作科ならびに中学校美術科の研究成果と幼児教育に関する学内プロジェクトの成果を融合して、新たな研究課題の創出を目指した。

本プロジェクトでは特に幼児期の造形活動に関して、造形要素を手掛かりに先行研究を取りまとめるとともに、Reggio Emilia Approachに係るReggio Emilia版の学習指導要領を造形要素の観点からまとめ、表現活動に係る環境構成を主とした実践的検証を行った。

科研費研究において最終目標とする造形教育メソッドの確立に向けて、連携・研究体制を組む2つの実践園において、申請に向けた基盤研究を行った。

実践園における活動については、提案内容に沿った解説と教材や環境整備に係る支援を行い、活動内容を収集・分析した。園の個性や教員の個性、園児の個性を組み合わせた「Reggio活動」を再提案し、その内容をまとめて学会発表するとともに、本学紀要論文として発表した。

この研究を通して、アカウンタビリティが求められる教育界において、感性教育という抽象的な教育対象と学習の尺度で説明が困難であった表現活動について、より具体的な資質や能力を解説できるメソッドとして活用されることが期待できる。

成果の応用可能性 (私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。)

各学校園の教員が専門性の高低に関係なく共通して理解を深めることのできる共通言語や共通する活動を探り、それらの内容をキーワードとして領域や教科の活動を分析してまとめなおすことで、各学校園の教員がより身近な活動を振り返りながら共通理解と相互理解を深めることのできるガイドブックとデータベースの作成を計画している。

点・線・面、形や色、材質やさわった感じ、上下・左右や構成、重なりや組み合わせといった分かりやすい“造形要素”をキーワードとして造形活動を分析し、まとめなおすことで、どの学校園の教員でも共有し共通理解につなげることのできるガイドブックとデータベースを作成する。

研究成果は、幼児期から小・中学校へとつながる活動や教科について、学校園の各教員が普段の活動や共通言語によって振り返り計画することのできる具体的かつ直接的な支援となり、他の領域や教科のつながりを検討する前例として各地の連携事業に貢献することが予測できる。

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

- ・令和2年度科研費獲得推進支援プロジェクト
- ・令和元年度
教職課程の質的水準向上プロジェクト研究
- ・平成23-25年度 概算要求特別経費プロジェクト
- ・平成25年度
教員研修モデルカリキュラム開発プログラム
- ・平成29年-31年度科研費研究(基盤研究(C))

プロジェクト構成員 (所属・職名・氏名・役割分担)

松久公嗣(美術教育ユニット, 教授) 研究代表